



発行所 鋼メタル情報センター
本社 〒530-0043
大阪市北区天満2-12-3
南末広ビル3階E号
電話(06)6353-7831(代表)
FAX(06)6353-7832
東京支社 〒104-0033
東京都中央区新川1-31-8
ニッケハイム茅場町
電話(03)5523-0442(代表)
FAX(03)5523-0443
購読料 6ヶ月 36,750円 前金
3ヶ月 18,900円

アルミ

アルミ新地金 第2クォーター対日プレミアム交渉 一部で10ドル前後の上げで決着、これがベンチマークに 他の交渉でも約10ドル上昇が受け入れられつつある

2012年第2クォーター(4-6月)積みアルミ新地金の対日CIFプレミアム交渉は大詰めを迎えており、大勢は今週中にも判明する見通し。

前期比(1-3月、112~114ドル)で18~20ドルと大幅な引き上げを要求する海外生産者と、高すぎて受け入れられないとして10ドル程度の引き上げに留めたい国内の買い手(大手商社など)との綱引きとなっており、交渉は難航している。

今回、海外生産者がこれほどまでに強気に出ているのは、これまで指摘されてきたアルミ新地金の余剰感が急速に解消しつつあるためだ。昨年末にLMEアルミ相場が急落したことから生産者は減産に乗り出し、供給は絞られることとなった。

2月以降は欧州の財政不安や米国景気の停滞感に回復の兆しが見られるようになってきたことから、これまで買い控えをし

てきたユーザーから追加の引き合いも増加。「余っていた荷物が減ってきており、(生産者も)スポットで出せる荷物は確かにないようだ」(大手商社筋)とされる。

このような需給の引き締めから、海外生産者は今期(4-6月)の対日CIFプレミアムを前期比18~20ドル引き上げの132ドルで主張してきた。一方で、国内景気に関しては震災復興需要が期待されているとはいえ、国内需要家も20ドルという急激な引き上げを簡単には受け入れられるはずもない。

交渉は一部で前期比10ドル前後の上昇となる「120ドルを少し超えたところ」(前出の商社筋)で決まりつつあることから、決着が付いていない国内需要家はこの120ドル強という数字をベンチマークに妥結を目指しており、10ドル程の上げという数字は徐々に「受け入れられつつある」(同)という。

2月のアルミスクラップレポートおよび3月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

概況:前半は米雇用統計が予想以上の好結果だったことや中国人民銀行総裁が金融緩和について肯定的なコメントをし上昇する場面はあったが、シカゴPMI指数の悪化、米ケースシラー指数(不動産価格)の悪化、さらにFRBバーナンキ議長の「米経済の回復ペースは苛立つ」とのコメントは嫌気し2167ドルと56ドル下落での前半締めとなった。

後半はムーディーズの欧州の複数の国債、銀行の格下げやHSBC発表の中国のPMI(消費者物価)が4カ月連続50を割るなどマイナス材料はあったが米住宅指標の予測を上回る上昇や中

国人民銀行が預金準備率を0.5パーセント引き下げるなど米中景気回復期待が台頭し上昇。3月6日現在、LME(現物後場)は2234ドルの82ドル強上昇のスタートとなった。

貿易指標:財務省貿易統計によれば輸出は、アルミ新地金が前月比-61.9%の48t、2次合金が-1.2%の728t、スクラップが-41%の5716t。輸入は新地金が前月比-1%の14万5073t、2次合金が+7.4%の10万8645t、スクラップが-19.6%の617t、合金スクラップは+20.3%の5827tとなった。

国内指標:日本アルミニウム協会発表の圧延品

の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比-5.3%の14万1425t(昨年対比-2.3%)。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比-1.6%の6万3890t(昨年対比-2.4%)となった。

見通し:自動車関連は堅調 それ以外はさらに下振れの月となった。自動車生産は前年比+18.6%の83万7179台と6カ月連続上昇し、下振れ懸念もよそに堅調に推移。国内自動車販売台数も33万3213台と前年比+31.9%と急上昇、また2-4月の自動車生産計画が+80.9%と自動車関連は絶好調。しかし自動車関連のアルミ2次合金生産は、前月比-1.6%の6万3890t。昨年対比-2.4%と3カ月連続調整中、今月に供給不足が予測される。

その他、家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比-5.3%の14万1425t。昨年対比-2.

3%と小幅悪化。新設住宅着工数は季節調整前月比+5%の6万5984戸。前年比は-1.1%とここ数カ月一進一退、急回復はなくこの調子が続きそうである。

輸入塊は上海シグマが12月末 現在で2300ドル(変わらず)、ロシア塊は2200ドル(+150)と上昇している。輸入は新地金が前月比-0.7%の14万5073t、自動車関連の2次合金は+14.8%の10万8645t、合金スクラップは+27.5%の5827t、スクラップは-19.3%の617t。輸出は新地金が前月比-61.9%の48t、2次合金が-1.2%の728t、スクラップが-41%の5716tとなった。

アルミ原料需要に関して新設住宅着工数は-1.1%(前年比)と低迷右肩上がりの回復は見込めないものの、最大の需要家である自動車

メーカーの自動車販売・計画共、約+40%と+81%と好調維持。前月に続き販売、計画の伸びに比べ前年比+18%と伸びが少ない生産は今月急増すると思われる。また2次合金生産も-2.4%(前年比)と調整が進み、輸入塊の高止まりを受け、供給不足が考えられ今後はこちらも生産が急増するとの予測。好調な自動車生産計画に2次合金メーカーが疑心暗示であったが、いよいよ3月以降、新年度むけて積極的な購入が期待される。

LME価格について、ギリシャ救済をうけての欧州懸念の後退、米経済指標の好転、中国金融緩和期待などプラス材料もあり、また現在の水準が生産コスト近辺(2300ドルであることから)下値不安も限られ若干上げの2100-2400ドルを予測。スクラップ価格については2月後半価格から+5から10円を予測。

活字鉛・鉛屑

雨滝商事株式会社

広陵リサイクルセンター

代表取締役 雨瀧 卓

奈良県北葛城郡広陵町大字三吉27-1

TEL/FAX (0745)60-1613 携帯 090-2115-4918

高価買取ります

輸出	11月	12月	1月
新地金	167 t	126 t	48 t
前月比	+6.4%	-24.6%	-61.9%
2次合金	716 t	737 t	728 t
前月比	-55.9%	+2.9%	-1.2%
スクラップ	8778 t	9688 t	5716 t
前月比	+20.7%	+10.3%	-41%

輸入	11月	12月	1月
新地金	12万 474 t	14万 6481 t	14万 5073 t
前月比	-21.5%	-21.6%	-1%
2次合金	11万 6755 t	10万 1202 t	10万 8645 t
前月比	+0.5%	-13.3%	+7.4%
スクラップ	558 t	767 t	617 t
前月比	-33.8%	+37.5%	-19.6%
合金スクラップ	5711 t	4943 t	5827 t
前月比	0%	-15.2%	+20.3%

